

定数・報酬の改正案への

本会議での討論

討論とは…

本会議で自分の意見（賛成または反対）を表明し、その意見に反対する議員、賛否の意思を決めていない議員を、自分の意見に賛同させることを目的に行うものです。



反対

みすずの会 清宮 寿子 議員

現状の議員定数のどこに問題があるかという委員会の問題意識欠如のまま、村民38人の意見をもとに2人減決定。さらに意見公募の内容を検討せず、見直さず、議論の過程も無い住民不在の議決は、開かれた議会運営に違反。

みすずの会 恵利 いつ 議員

地域が抱える課題は様々であり、近隣の自治体が定数削減をしているからといった社会情勢に無批判に流されるべきではない。地方自治力が求められている今、住民の声なき声を広く集めるためにも、定数削減には反対。

無会派 大名 美恵子 議員

議会の村民と村政とを結びパイプ役としての役割と機能及び村政をチェックする機能の低下につながる。さらに他市町村の定数を参考にすると必然性はなく、原発が立地するという本村の実情に見合った定数を決めればよい。

みすずの会 阿部 功志 議員

本村の最重要課題、原発の再稼働問題を民主的に考えていくには、一方に偏らない議会が必要だ。2人減の合理的理由が弱いまま村民の意見を都合よく利用し、パブコメの声を無視した委員会のあり方こそが問題である。



賛成

公明党 岡崎 悟 議員

議会議員定数を何人で構成するのが妥当か。現状20人を維持しなければ、付託に応えられないとする根拠もないと考える。人口面積で勝る那珂市等の近隣市より、議員定数が多いのは、説明できない。よって2人削減賛成。

新政とうかい 村上 邦男 議員

議員定数については、本村の今後の人口減少や税収減を見すえた歳出削減等のほか、近隣議会の定数削減実施状況等を踏まえて、東海村議会も「2人減」は妥当である。

議員定数2人減



反対

みすずの会 清宮 寿子 議員

現状の議員報酬の問題点を共有し、改善のための議論というプロセスが皆無であり、住民への情報開示も全くない。委員会設置の目的は、当初から月額報酬2万円増額の結論を出すためのスケジュールありきの多数決の暴挙。

みすずの会 阿部 功志 議員

パブコメには委員会に批判的な内容が多いからか、その検討をまったくしないまま「何も問題は指摘されなかった」とされた。話し合いのプロセスを尊重しない進め方が問題で、これでは民主的な議会を維持していけない。

みすずの会 江田 五六 議員

報酬は、議会活動の状況や厳しい雇用情勢・村民の世論等を踏まえ、論理的に議論する必要があった。しかし、小規模自治体での問題点を本村にあてはめた議論や周辺自治体との比較に終始。村民の理解は得られない。

無会派 大名 美恵子 議員

現在の報酬が議員としての仕事を遂行する上で妨げになるほど低い金額とは言えない。生活給としては家族構成など個々に違いはあるが、税金が原資の議員報酬をこれ以上引き上げては、村民感覚とかけ離れるばかり。



賛成

公明党 岡崎 悟 議員

議員2人減で、報酬等約1,500万円が削減となる。その中から、18人に月2万円の報酬増を行うと、議会費は年約900万円削減となる。報酬増は、子育て世代が立候補し、議員になるうとする意欲を高めるための環境整備の1つ。

新政とうかい 村上 邦男 議員

議員報酬については、定数減に伴う活動の幅の拡大や、議員のなり手の確保、より精力的な議会活動の実施を求める住民意見等を総合的に勘案し、「月額2万円の増額」は妥当である。

議員報酬2万円増